

2020年5月8日

令和1年度事業報告書

1. 事業活動方針

(ア)認定 NPO 法人の目標や活動内容を周知し、一般市民からの賛同を得るように努め今後の寄付活動の準備を進めた。賛助会員の募集、法人会員の募集キャンペーンを実施。

(イ)小田原城天守を木造で復元するために必要な調査や関連事業を実施。

(ウ)Web や SNS を通して広く木造復元の周知活動。またイベントを開催して普及活動を実施。

2. 事業内容

(ア)小田原城天守木造復原に関する普及事業

① 小田原城調査研究プロジェクト (次ページ参照)

1. 天守木造復原に必要な研究、人材育成、資金検討等の具体的な課題への解決案を提案していく為の研究活動。

② 講演会 (令和2年2月11日)

1. 創立記念事業として当会の小田原城調査研究室の小田原城天守模型調査の中間報告と伝統木構造に造詣の深い大工棟梁 (白根伸浩)、林業家当主 (辻村百樹) から見た木造天守についてお話しいただきました。

(イ)森林の保護・育成事業

① 御用材プロジェクト

1. 昨年に引き続き立ち枯らし試験 (令和1年8月25日)

(ウ)その他この法人の目的を達するために必要な事業

① 昨年度に引き続き継続的に天守木造復原に係わる市当局との調整を図り、天守木造復原に必要な(FS: Feasibility Study(可能性検証検討))研究を行なった。

② 当会の Web サイトや SNS、紙面による「お城通信」等にて活動内容の周知や普及活動を行なった。

小田原城天守調査研究室 事業報告

1. 研究内容

本研究室は2018年度に策定した研究概要に則り、随時調査・研究を継続している。2019年次(2019.6～2020.5)は主に、天守模型の3次元測量と史料調査などを行った。なお、新たな模型制作プロジェクトは延期とし、一部他の調査研究に切り替えた。

(ア) 主な調査・研究

① 「大久保神社模型」と「東大模型」の調査

東京農業大学國井研究室との受託研究の初動調査として、レーザースキャナによる3次元測量と、一部CADデータ化を行った。

② 小田原城に関する史料（「小田原城并見附図」）の調査

基礎史料のひとつである「小田原城并見附図」（小田原市立図書館蔵）の実見調査とスキャンを行った。

③ 既往研究にみられる天守の構造技法についての考察

専門研究員の修士論文で推定した天守の構造技法について、他の建築における事例を収集、調査した。

(イ) 研究成果

上記についてこれまでの成果と今後の課題を示す。

① 「大久保神社模型」については、測量により得られた点群データから一部CADデータ化までを行うことができた。「東大模型」は物理的な制約上、十分な測量結果を得られなかったため、今後再調査を行う予定である。

② 「小田原城并見附図」は現天守内の「摩利支天」空間復元において重要な史料となっており、本研究室としても改めて天守全体の木造復元の史料として再検証している。寸法など不明確な点も多いため、今度識者との協働が俟たれる。

③ 「小田原城三重天守引図」により、軸部を固める目的として推定された技法の調査対象を社寺や民家まで広げ、特に関東の仏堂などにおいて幾つかの事例を得た。引き続き調査範囲を拡大して研究する予定である。

2. 今後の活動

(ア) 模型調査

公益財団法人などの研究助成金を申請予定であり、東京農業大学國井研究室とは受託研究を継続し、今後のCADデータ化に際しては本研究室も協働していく。

(イ) 研究発表

成果については当会の報告会などで公表、併せて2020年の日本建築学会大会にて発表予定。（タイトル:「指し付け部材にみる「扱き柄」等についての一考察」）

以上